

令和5年度第1回八幡市総合計画検討懇談会会議録（要旨）

○日 時：令和5年5月25日（木） 9：00～11：00

○場 所：八幡市役所 5階 会議室5-2

○傍聴人：0名

○内 容：

- 1 開会
- 2 出席者紹介・委員委嘱
- 3 市長あいさつ
- 4 会長選出
会 長：橋本 行史 委員（大阪観光大学教授）
- 5 懇談会の公開
会議の原則公開を決定。
- 6 議事（協議・報告）
 - （1）総合計画・総合戦略の概要及び懇談会の趣旨等について
 - （2）第5次八幡市総合計画第6次実施計画（案）について
 - （3）意見交換
- 7 その他
 - （1）懇談会でいただいたご意見について
会長と事務局で調整の上、主な意見を実施計画に掲載する。また、議事録を市ホームページ上で公開する旨、了承。
 - （2）次回懇談会について
八幡市まち・ひと・しごと創生検討懇談会を11月頃に開催する予定。

○懇談会委員意見・質疑等【基本目標（章）ごとに要旨をまとめて記載】

【基本目標1（第1章）ともに支え合う「共生のまち やわた」について】

委 員：自治会への加入率が50%を切っているところもあり、ある自治会では民
間の土地を借用し、農園として地域住民が利用できるようにするなどの
取組を行っており、地域活性化につながっていると感じている。そのよ
うな取組が広がればよいと考える。

委 員：加入者や担い手の減少による自治会の合併や自治会加入者の減少は身近
な問題であり、不安を感じる。

事 務 局：価値観の違いにより、メリットや魅力を求める方がいることは認識して
おり、自治会の取組事例を紹介するハンドブックを作成している。

会 長：事例の紹介だけでなく、他地域での成功事例を具体的に紹介するなどの

対応も検討いただきたい。

委員：行政に限らず、自治組織等においても誰一人取り残さないという SDGs の視点を取り入れることも重要である。

委員：ワーク・ライフ・バランスの啓発等に取り組まれている中で、市役所の男性職員の育児休業取得率が高まっていることは評価すべきであり、市内企業に対して発信すれば、一層の機運醸成が図れるのではないかと。

会長：外国人労働者の増加がみられており、今後大きな問題となるのではないかと。

事務局：外国人人口の平成 29 年度から令和 4 年度までの増加率について、八幡市が全国で 2 位という総務省の統計データが出された。主に男山団地において、外国人住民が増えていると認識しており、日本語指導ボランティアの育成や関西大学と連携したベトナムの文化に触れるイベントなどに取り組んでいる。また、外国人支援団体との課題の共有を図っている。

委員：働き手不足については、外国人人材の活用が期待される場所であり、その意味でも多文化共生の推進が必要と考える。

会長：多様な国籍、多様な考え方があつた中で、外国人支援団体との連携、協力の活発化についても検討いただきたい。

【基本目標 2（第 2 章）子どもが輝く「未来のまち やわた」について】

委員：産後は、心身ともに疲弊しており、産前・産後ケア事業など様々なサポート体制が構築されているのは評価できる。しかしながら、買い物支援のように、メニューがあること自体が市民に認知されていない事業も多いと感じる。

委員：八幡市は待機児童ゼロが続いていることが大きな魅力であり、一層の PR を行うべきだと考える。

委員：アフターコロナを迎える中で、夏祭りなどの地域の伝統行事を見直し、良いものは再度取り組んでいく必要がある。

会長：地域の行事がコミュニティのつながりのもととなるという考え方があり、参加するメリット等の問題がある中で、見直し、良い部分を魅力ある活動へつなげていく必要がある。

委員：大阪府では高校の授業料の無償化が進められている。また、子どもの医療費助成についても地域でばらつきがある。他地域と比べて八幡市に住

- むメリットを感じられなければ、市外に転出した子育て世帯が戻ってこないことが予想されるが、八幡市でもそのような取組はできないか。
- 会 長：都道府県レベルの財政力にも大きく左右されているため、なかなか難しいのではないか。
- 委 員：財政的な課題を商工業や観光の活性化で補っていくことが必要と考える。
- 会 長：学校教育について、小学校 6 年生の学力が向上しているが、中学校 3 年生の学力は低下している。
- 事 務 局：学力調査は、対象となる児童・生徒が毎年変わるためばらつきが生じている。中学校 3 年生の学力向上には、幼少期からの学習習慣や学力の定着が重要であることから、小学生版のスタディサポート事業に取り組んでいる。小学生から学力の基礎作りによる学力向上に期待している。
- 委 員：小学校によって学力にばらつきはないか。
- 事 務 局：学校ごとで公表されていないが、今年度には、特に就学援助率の高い小学校区を対象とした取組として、「地域における寺子屋事業」を新たに試行的に実施し、家庭学習を身につけるための支援を行うことにより、学力の向上につながればと考えている。
- 委 員：「子どもわくわくスポーツ教室」は子どもの運動能力向上につながる取組であるが、そこで学んだことを身近で練習できる運動環境がなく、整備していただけると子どもの意欲の向上につながるのありがたい。

【基本目標 3（第 3 章）誰もが「健康」で「幸せ」な「健幸のまち やわた」について】

- 委 員：歩行環境の充実に関し、市の健康イベントへの参加はみられるが、イベントに参加するだけでなく、普段から歩いてもらうような取組も必要ではないか。また、地域ごとのモデルコースなども検討いただきたい。
- 事 務 局：中学校区ごとにウォーキングマップを作成している。アンケート結果では、認知率が低く、周知に努める必要がある。
- 委 員：出歩くことができない人に向け、自宅でもできるトレーニングの紹介などの支援も必要ではないか。
- 事 務 局：外出機会の創出が重要だと考え、「やわた未来いきいき健幸プロジェクト」や健康イベントの実施、健康アンバサダーの育成に取り組んでいる。
- 委 員：地域の高齢者を対象とした運動教室などを開催したいが、ノウハウがない地域も多い。
- 委 員：市において、運動教室を展開していく元気アップサポーターを養成されている。そのサポーターの活用を活性化させることについて検討していく必要がある。
- 会 長：多様な方に対してアプローチできるような取り組みが必要である。また、単体で成功したイベント間の連携など、次の段階に進んでいく必要がある。

【基本目標 4（第 4 章）自然と歴史と文化が織りなす「観幸のまち やわた」について】

委員：文化庁移転や大阪・関西万博など、京都観光にとって追い風が吹いている今がチャンスの時であり、この機を逸することのないよう取り組まれない。また、舟運は外国人も興味を持つコンテンツであり、舟運と連携したイベント等により、八幡市の PR につなげていきたい。なお、三川合流域からの二次交通などの課題もあるため、石清水八幡宮駅前の再整備は必要と考えている。

事務局：駅前整備については、短期での整備は難しいが、今年度は石清水八幡宮駅前整備の整備に向けた現況調査に取り組むこととしている。また、舟運については、淀川舟運活性化協議会に参画しており、2025 年までに万博会場から枚方市まで大型船、枚方市から八幡市を通り京都市伏見区までは中型船がそれぞれ就航できるようになる予定である。

委員：東京の屋形船も外国人に人気であり、海外でもライン川のクルーズ船などもある。そうしたニーズを取り込めるとよいと感じる。

会長：今年度、観光基本計画の改定に取り組むとのこと。本章に掲げている指標は概ね前進しており、評価できるが、地元住民が観光振興の恩恵を実感できるような取組についても検討されたい。

【基本目標 5（第 5 章）しなやかに発展する「活力のまち やわた」について】

委員：若手農家が増えており、担い手育成の成果が出てきている。久御山町のホワイトコーンのように、八幡市独自の農産物を生み出すような新しい取組にチャレンジできる支援に加え、販売力や経営力強化につながる取組を進めていただきたい。

委員：そのためにも、地場産農産物等の一層の PR などの必要な施策に取り組まれない。

委員：飲食店やコンビニエンスストアが少ない地域も見られ、安心して生活していただくためには、継続的に商売がなされている環境づくりが必要である。

【基本目標 6（第 6 章）持続可能な「安心・安全のまち やわた」について】

委員：市ホームページアクセス件数が目標値を達成している点は評価できるが、市単独での情報発信には限界があることから、民間やインフルエンサー、市民等にも協力を得て情報を届ける取組についても検討されたい。